話題の本

手塚治虫 ブッダ

英訳版が書店に

ブッダ（英訳版）
Vol.1 KAPILAVASTU
Vol.2 THE FOUR ENCOUNTERS
原作・手塚治虫
ハードカバー
発行元　Vertical Inc.
定価　＄36.95
カナダ国内大型書店、Amazon.caなどで販売中
www.vertical-inc.com（英語）
www.vertical.book-store.jp（日本語）

昨年後半に公開された映画「キル・ビル」「ラスト・サムライ」「ロスト・イン・トランスレーション」。この3作に共通するのは、日本が舞台となっていることだ。

２００２年には、日本で大ヒットしたホラー映画「リング」のハリウッドリメイク版が北米公開されヒット。さらにホラー映画「呪怨（じゅおん）」や、コメディー「ＳＨＡＬＬ ＷＥ ＤＡＮＣＥ？」もリメイク版の制作が着々と進みつつあり、ハリウッド映画界は、まさに日本ブームの真っ只中といったところだ。

映画だけではない。音楽、アート、食べ物など、さまざまなジャンルにわたって、北米での「日本色」は濃くなる一方。その「日本ブーム」の急激な広がりに、いちばん戸惑っているのは、実は、当の日本人かもしれない。

近年の日本ブームの特徴は、あくまでも「ポップ」「サブカル」「アングラ」がもてはやされているという点。在外期間が長い日本人は、こうして輸入されたものに触れて初めて、今の日本を知ることもあるのではないだろうか。

さて、前述の映画「リング」は、ハリウッドスターのナオミ・ワッツの主演でヒットしたが、その後、２００３年には原作（鈴木光司作）が英訳出版され、こちらも高い評価を得ている。

英訳版「リング」を出版したのはヴァーティカル・インク。

ニューヨークに本社を置くこのベンチャー企業は、２００１年に発足。日本の小説などを英訳出版しているが、太宰、三島、漱石などのすでに世界的に名を知られた作家ではなく、今売れている作家を取り上げ、北米に紹介するというのが特徴だ（本紙03年11月14日号で紹介）。

同社は、今や日本文化の代表選手である「マンガ」の世界にも進出。現在、手塚治虫の「ブッダ」の英訳を手がけている。そのタイトルの通り、仏教の始祖、ブッダ（釈迦）の生涯を描いたもので、数多い手塚作品の中でも名作といわれている一作だ。

日本で出版されたマンガ単行本で全14巻分の大作を、英訳版では8巻に分けて出版される予定。現在、1～2巻が書店に並んでいる。

物語の舞台は３５００年以上前のインダス河流域。この国には、ブッダ出現前に始まり現在まで続く「カースト」という身分制度があり、作中にもさまざまな身分の人物が登場する。

その最高位にあるバラモン（僧）でさえも逃れられない「生老病死」の苦しみと、それを乗り越える教えを説くブッダをはじめとする人々の勇気、愛情が感動的に描かれている。

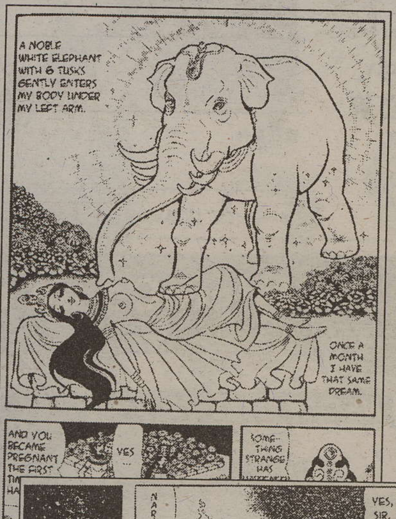
全体的に重たい印象を抱かせる作品だが、その中でも手塚のユーモアは生きている。コマの端に、おなじみ「ひょうたんツギ」がいたりすると、ほっとするものだ。

第１巻のクライマックスは、ゴータマ・シッダルタ（釈迦の幼名）の誕生シーン。手塚治虫は、未完の絶筆、「ルードウィヒ・Ｂ」で、荘厳な音楽を絵で表現し絶賛されたが、このシッダルタ誕生シーンも、オーケストラが奏でる重厚な音楽が聞こえて来るようで、鳥肌が立つほどの感動を覚える。

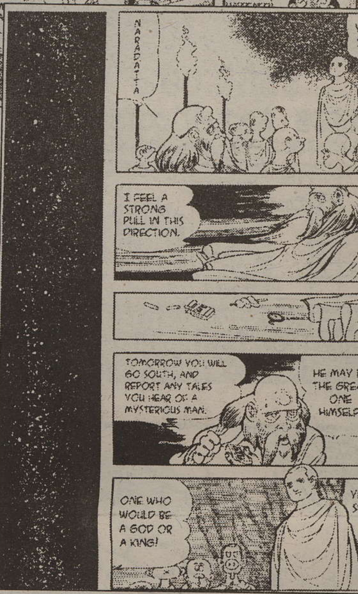
この名作が英訳されたことで、日本語を読まない家族や友人とも、同じ感動を共有できるというのは意義のあることだろう。「ブッダ」というテーマにしり込みせず、日本が築き上げた「マンガ文化」を紹介するつもりで、一緒に読んでみてはいかがだろうか。

（編集部・平山紀久子）

▲現在書店に並んでいる１～２巻。３～５巻は今春、６～８巻は今秋発行予定



▶シッダルタの母が、懐妊したときの夢を語る

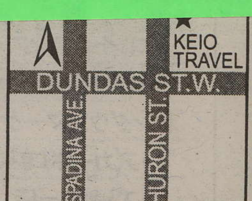


▶主要人物の一人、ナラダッタの登場シーン。真面目な場面だが、手塚のいたずらが見られる

ブッダ英訳版Vol.1を１名様にプレゼントします。希望者は22ページの募集要項に従ってご応募ください。３月12日（金）正午締切

2/27/2004 Budda

to, ON M4H 1L7

に残るたびを

ケイオー・ト
KEIO TRAVE
■オーロラ・パッケージツアー（特別
■呼び寄せ／里帰り便スペシャル料金
■カナダ、米国、及び世界各国へのディスカウント航空チケット
■パッケージツアー、ホテル、クルーズ